

みえ高校生県議会

初開催

広聴広報活動の一環として、高校生が議会活動を体験することで議会に対する関心を高めるとともに、高校生の意見を直接聴くことで議会での議論に反映していくことを目的に、平成26年8月20日に「みえ高校生県議会」を初めて開催しました。

高校生が議場で質問し、県議会議員が答弁するという内容のもので、質問する高校生は県内の高校などから募集し、8校26名の高校生が参加しました。
当日の内容をご紹介します。

みえ県議会新聞

平成26年(2014年)冬号 〈発行 三重県議会広聴広報会議〉
〈企画・制作 伊勢新聞社〉



神戸高等学校

生木新大議員、割子田瞬議員、伊藤美音議員、寺前蓮議員

質問 地域防災力について

「防災」、「減災」のためには、自らの命、身の安全を自ら守ろうとする「自助」や、自らの地域を自ら守る「共助」の取り組みを推進し、地域防災力を高めていくことが必要だと思います。県の取り組みを調べたところ、平成24年度に三重県知事が「白い小箱運動」に調印していました。白い小箱の中には非常食が入っていて、箱は簡易の和式トイレになります。災害時にとても役立つものなのですが、私たちは全く知りませんでした。そこで、現在、具体的にどのようなPRをしており、今後どのようにPRしていくのかお聞かせください。



答弁 防災県土整備企業常任委員長(村林 聡)

「白い小箱運動」については、県議会でもその重要性が認識されています。県では平成24、25年に、運動の趣旨や小箱の中身を紹介するキャラバン活動の実施や、マスメディアを活用した情報発信に取り組んでいます。今後は白い小箱の周知や備蓄の必要性だけでなく、備蓄そのもののあり方などについて整理した上で、防災意識を高めるためのさらなる取り組みも展開すると聞いていますので、県議会としても今後の取り組みを注視していきます。

○その他の質問事項

三重の観光PRについて